



最初にお読みください

AT-TQ2450 リリースノート

この度は、AT-TQ2450 をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。
このリリースノートは、マニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 1.1.5

2 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン 1.1.0 から 1.1.5 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 2.1 AT-UWC の無線チャンネル自動機能を有効にした場合、本製品が気象レーダーを検知すると使用できないチャンネルを設定してしまうことがありましたが、これを修正しました。
- 2.2 VAP を複数設定していると、起動時に一部の VAP 設定が正常に反映されない場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 2.3 クラスタ機能有効時、まれにレポートする場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 2.4 本製品の運用中に、無線通信に異常が発生する場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 2.5 本製品起動時に出力される Device Bootup メッセージが送信されない場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 2.6 AT-UWC 管理下の本製品において、まれにレポートすることがありますが、これを修正しました。
- 2.7 レーダー検出処理時に、まれにレポートする場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 2.8 本製品の起動時に、NTP の時刻同期ができない場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 2.9 Device Bootup メッセージが実際のバージョンと異なる表示をする場合がありますでしたが、これを修正しました。

3 本バージョンでの制限事項

ファームウェアバージョン 1.1.5 には、以下の制限事項があります。

3.1 イーサネット設定

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「イーサネット設定」](#)

「イーサネット設定」画面でサブネットマスク 0.0.0.0 が登録可能です。

3.2 無線

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「無線」](#)

- 「プロテクション」を「オフ」にしても RTS/CTS が送出されません。
- サポートレートを超えるレートで送信されたパケットを受信しません。
- 「モード」を IEEE 802.11a から IEEE 802.11a/n にすると、設定の変更がただちに反映されません。「無線 2」の「ステータス」をいったん「オフ」にして「オン」にするか、本製品を再起動してください。

3.3 VAP

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「VAP」](#)

- IEEE 802.1X、WPA エンタープライズのブロードキャストキーとセッションキーの更新が同一のタイミングで実行されます。
- ダイナミック VLAN (WPA エンタープライズ) 環境で、無線クライアントの検疫を実行するように RADIUS サーバーが設定されている場合、無線クライアントに VLAN 間ローミングが発生すると、無線クライアントの認証に失敗することがあります。
- 無線 1 と無線 2 の両方がオンに設定されている状態で、セキュリティとして WPA エンタープライズ (WPA2、CCMA (AES)) または IEEE 802.1X を選択し、VAP の 13、14、15 のいずれかの「有効」にチェックを入れて「適用」ボタンをクリックすると、該当の VAP に接続できないか、接続できても通信できません。再度「適用」ボタンをクリックするか、本製品を再起動することにより接続および通信ができるようになります。

3.4 クラスタ

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「クラスタ」](#)

クラスタ機能を使用した場合に、「WIRELESS LAN」の LED が点灯しない場合があります。なお、LED の表示の問題で、実際の無線出力に影響はありません。

3.5 送信 / 受信

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「ステータス」](#) / [「送信 / 受信」](#)

LAN ポートでパケットを受信した後に統計情報を更新すると、送信 / 受信の総パケット / パイット数とともに送信の総エラー数もカウントアップします。

3.6 QoS

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「オプション設定」](#) / [「QoS」](#)

- cwMin（最小コンテンツウィンドウ値）と cwMax（最大コンテンツウィンドウ値）に同じ値を入力することができます。値を変更する場合、cwMin < cwMax となるように入力してください。
- 「NoAck サポート」は機能いたしません。
- 「APSD サポート」は正常に機能いたしません。

3.7 設定、アップグレード

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「保守管理」](#) / [「設定」](#)

[「リファレンスマニュアル」](#) / [「保守管理」](#) / [「アップグレード」](#)

重要：アップグレードやダウングレード中は、本製品の無線機能が停止します。アップグレードやダウングレードは、必ず有線 LAN ポートに接続したコンピューターから実行してください。
また、アップグレードやダウングレード中は、本製品の Web 設定画面へのアクセスや、有線 LAN ポートへのトラフィック流入をできるだけ避けてください。アップグレードやダウングレードに失敗するだけでなく、本製品が起動できなくなる可能性があります。

- バックアップ、リストア、アップグレードにおいて、設定ファイルやファームウェアファイルのフルパス名が 254 文字までしか入力することができません。
- ファームウェアファイルの転送中に、UTP ケーブル抜けなどにより転送が不完全な状態となった場合は、本製品を再起動した後、再度アップグレードを実行してください。再起動を行わないと、アップグレード中にメモリー不足となり、リポートしてしまうことがあります。
- ファームウェア転送中に Web ブラウザーを閉じると、本製品が再起動します。再起動後は元のファームウェアで起動します。

3.8 Web 設定画面

- 「SNMP マネージャのホスト名またはサブネット」にマスク長として 33～99 の値を入力すると、画面下部にデバッグメッセージが表示されます。また、マスク長の値を 100 以上にすると「サブネットが無効です」というメッセージが表示されます。

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「オプション設定」](#) / [「SNMP」](#)

- 「チャンネル自動管理」画面の「固定」チェックボックスを適用する際に、画面の下部にデバッグメッセージが表示されることがあります。

 **参照** 「リファレンスマニュアル」 / 「クラスター」 / 「チャンネル自動管理」

- Web ブラウザーのキャッシュの影響によって画面が正常に表示されないことがあります。その場合は、キャッシュをクリアしてください。

4 オンラインヘルプの訂正

オンラインヘルプ（ファームウェアバージョン 1.1.5B03）の誤記訂正です。

4.1 VAP

 **参照** 「リファレンスマニュアル」 / 「詳細設定」 / 「VAP」

「オンラインヘルプ」 / 「詳細設定」 / 「VAP」

「VAP」画面の「IEEE 802.1X」および「WPA パーソナル」の「ブロードキャストキー更新間隔」のデフォルト値として「300」が記載されておりますが、正しくは「0」（キーを更新しない）です。訂正してお詫びいたします。

5 リファレンスマニュアルについて

最新のリファレンスマニュアル（613-001462 Rev.B）は弊社ホームページに掲載されております。本リリースノートは、上記のリファレンスマニュアルに対応した内容になっておりますので、お手持ちのリファレンスマニュアルが上記のものでない場合は、弊社ホームページで最新の情報をご覧ください。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>